

(公社)日本動物園水族館協会 活動報告
～亜種カワラヒワにおける飼育繁殖技術確立・普及啓発活動について～

オガサワラカワラヒワ検討会事務局 高橋幸裕

・オガサワラカワラヒワに関する保全活動の経緯

動物園におけるカワラヒワの飼育は 1891 年に上野が購入により飼育を開始した。それ以降、国内の動物園でカワラヒワを含むアトリ科の鳥類は飼われている。国内に生息、飛来するアトリ科の鳥類は、普通種であり保護などで入手が容易であった。そのため国内の動物園では、アトリ科鳥類の飼育繁殖例はあるが、繁殖技術の確立には至っていない。

2021 年には(公社)日本動物園水族館協会(以下 JAZA)の生物多様性委員会では、絶滅に瀕するオガサワラカワラヒワを調査種に選定した。同委員会内の小型鳥類では同年 10 月に作業部会、同年 11 月に種の保存会議にて本種の保全活動について協議した。協議の結果、亜種飼育での「飼育技術確立」、加盟園館による「普及啓発活動」などが提案された。具体的な保全活動に関しては、検討会を開催することとなった。